

屋久島生態系モニタリング

屋久島東部(愛子岳)の植生垂直分布調査 (平成 23 年度/2011 年度)

●標高 800 ㍻プロット
 [優占種の変化]

階層区分	2001 年	2006 年	2011 年
高木層(6.0m 以上)	ヒメシヤラ	バリバリノキ	バリバリノキ
亜高木層(3.0 ~ 6.0m)	サクラツツジ	サクラツツジ	サクラツツジ
低木層(1.2 ~ 3.0m)	ハイノキ	ハイノキ	ハイノキ
草本層(1.2m 未満)	ヤクシマアジサイ	ヤクシマアジサイ	ハイノキ

2001 年の高木層のヒメシヤラが風倒被害を受けて本数が少なくなり、優占度が低下したと考えられる。草本層のヤクシマアジサイはヤクシカの食害で優占度が低下したと考えられる。

[直径階別本数の変化]

2001 年～2006 年の胸高直径 1～9cm の本数が急激に低下した原因としては、風倒被害及び土砂流出が考えられる。屋久島東部の平野で最大瞬間風速 50.6m/s を記録した 2004 年の大型で非常に強い台風 16 号や同観測地点で最大瞬間風速 58.1m/s を記録した 2005 年の大型で非常に強い台風 14 号などが影響していると考えられる。

[草本層指標種の出現と消滅]※指標種は No.234 号に掲載。

消滅した種(嗜好性)	消滅した種(不嗜好性)	出現した不嗜好性種
		キジノオンダ(暖)
		コウヤコケシノブ
		ヤブツバキ



樹高の調査

大分舞鶴高校からの依頼を受け、平成 26 年 11 月 15 日、宮之浦岳国有林 224 林班および 225 林班内において理数科の生徒 17 人が植生調査を体験しました。

「スーパースサイエンスハイスクール」に指定されている同校は屋久島の自然に触れ、自然への興味・関心を一層高めるとともに、科学的探求を行う上でのスキル・心構えを体得することを目的に 2 泊 3 日の

大分舞鶴高校体験学習生を受入

「屋久島体験研修」を昨年から実施しています。

屋久島森林生態系保全センターには植生調査を生徒達に体験させたいとの依頼があり、昨年は愛子岳(標高 2000 ㍻)の照葉樹林の植生調査を体験してもらいました。

照葉樹林は樹種も多く複雑であることから、今年度は、宮之浦岳国有林で繁殖している外来種アブラギリに的を絞った調査方法を体験するプログラムとしました。

【学習のねらい】

本紙上では毎号、5 年ごとに調査を行っている屋久島生態系モニタリングの概要を掲載しています。これに見られるように森林の移り変わりは非常に緩やかであり、その状況を把握するためには、森林の階層区分ごとに構成樹種の変化などを調査する必要があります。

今回の学習では、森林の階層構造を見るためにはどのような調査が必要で、調査データをどのように取りまとめたら良いのかに主眼を置いて行いました。

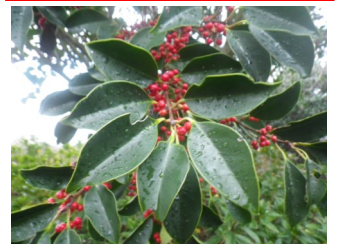
【初めての経験】

生徒らは 2 班に分かれ、事前に設けてあったプロット内の樹木の樹高や直径、生えている位置などを計測しました。初めて体験する作業ではじめて戸惑っていましたが、次第に慣れ、各班ごとに力を合わせ一生懸命に作業に取り組んでいました。

その後一行は、当センターに場所を移し、前田三文所長からプロジェクトを使って今回の調査のねらいや毎木調査したデータをどのように活用するかなどについて説明を受けました。生徒らは、自分達が調査したデータがどのように取りまとめられ、分析されるのか興味深く聞いていました。

最後に生徒代表から「森林生態系の調査方法のひとつである毎木調査には以前から興味をもってお

屋久島の植物



クロガネモチ
(モチノキ科)

関東以西に分布する常緑高木。屋久島では低地の林内に見られ、街路樹にも使われている。葉は楕円形で濃緑色、若枝や葉柄は紫色を帯びる。樹皮は灰白色でなめらか。冬に赤い小さな果実がたくさんついているのが目立つ。

花期 6 月、果期 12 ～ 2 月。

り、今回は調査方法からデータの取りまとめまでを実際に体験でき、良い経験ができました。この体験を今後の学習に活かしていきたい」とお礼のことばをいただきました。今回参加した生徒の中から、素晴らしい自然科学者が誕生することが期待されます。



笑顔で記念撮影(センター玄関前)

アサヒビール(株) 『ボランティア活動』に汗



ボランティア活動に汗を流された皆さん

屋久島レクリエーションの森保護管理協議会では、支援協定を結んでいるアサヒビール(株)と地元の関係機関とで、屋久島自然休養林(ヤクスギランドと白谷雲水峡)内における清掃等ボランティア活動を平成20年度から毎年実施しています。前年は屋久島世界自然遺産登録20周年を記念し、一般参加者を募集して多数の参加をいただいたことがご縁で、本年も一般の方8人の参加をいただき、11月8日(土)



木道の清掃に汗

白谷雲水峡において、アサヒビール15人、関係機関32人、一般8人、総勢55人の参加のもと活動を実施しました。今回の活動内容は、午前は入口周辺の看板、東屋、ガードレールの苔落としや看板の補修などを行い、午後からは森に入って木道・手摺りの苔落としや石道の清掃を6班で分担して行いました。当日は小雨の中での作業でしたが、この時期にしては作業に適した気温(15℃)で、入口周辺の看板や遊歩道の木道、手摺りなどが見違えるように綺麗になり、参加者の皆さんも満足していました。参加者の皆さんに感謝申し上げます。

アサヒの森が「林野庁長官賞」を受賞

アサヒビール(株)は、広島県庄原市と三好市に2、165haの社有林「アサヒの森」を有し、ここでは半世紀以上にわたり、健全な森林の維持と持続可能な森林経営が行われています。

また、広島北部森林管理署と連携した「森林教室」を開催するなど森林環境教育にも取り組んでいます。

これらの取組が評価され、「第53回全国林業経営推奨行事」で「林野庁長官賞」を受賞しました。

「屋久島レクリエーションの森」 作文コンクール 入選作品紹介

レクリエーションの森保護管理協議会では、未来を担う屋久島の子どもたちに白谷雲水峡やヤクスギランドの自然休養林をはじめ、大川の滝・千尋の滝・田代ヶ浜の風景林をレクリエーションの森として身近に親しみ、森林の大切さを再認識してもらうことを願い、小中学生の作文コンクールを毎年実施しています。今年も小・中学校から61作品の応募がありました。その中から入選作品について以下に紹介します。レク森ではこの作文募集を平成23年度より実施し、今回4回目となります。前年に引き続き多くの作品が集まりました。回を重ねる毎に、

世界自然遺産の屋久島で成長する子どもたちの豊かな表現力や屋久島の自然を大切に思う心に感銘を受けました。これらの全作品を、11月4日～19日まで屋久島環境文化村センター交流ホール(宮之浦)に展示しました。12月1日～11日まで安房総合センターロビーに展示しています。応募された児童・生徒の皆さん、ありがとうございました。

『大川の滝』
奨励賞

荒木賢登(中央中一年)
『大川の滝』

○小学生の部

最優秀賞

藤篠玉葉(永田小五年)
『百年先の未来まで』

優秀賞

赤司弦貴(神山小四年)
『赤司家とシカとサルの不思議な登山』

徳永よしみ(永田小六年)
『人生に一回は行った方がいい所』

奨励賞

ます田かおる(安房小三年)
『大川のたき』

小倉昂(永田小三年)
『きびしかったじょう文杉と山』

泊朝希(安房小四年)
『自分の目で見ると』

和田萌々香(安房小四年)
『また登山したいな』

田中美空(永田小四年)
『初めての太こ岩』

黒川陽菜乃(神山小五年)
『屋久島の森の山の奥』

七里太音(永田小五年)
『この経けんを来年に』

若本流音(宮浦小五年)
『それぞれ違う滝』

○中学生の部

最優秀賞
荒木仁(中央中一年)
『屋久島の滝』

優秀賞
藤村嵐士(中央中一年)